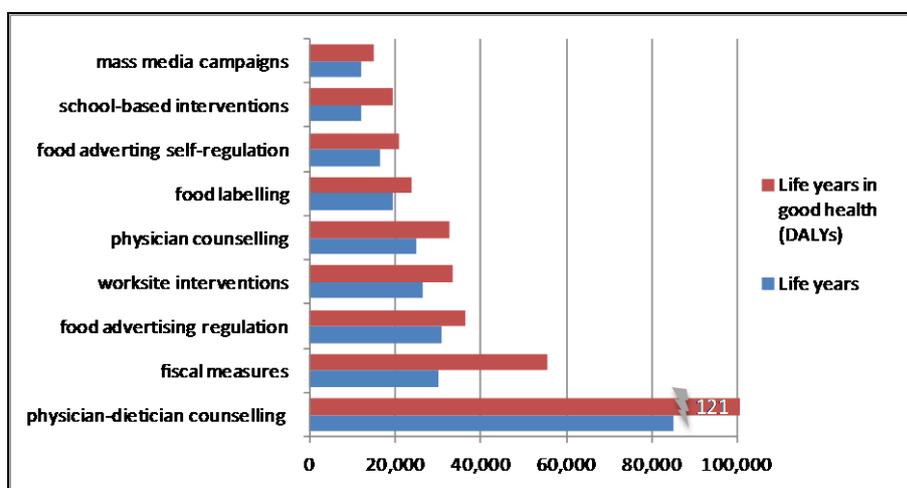


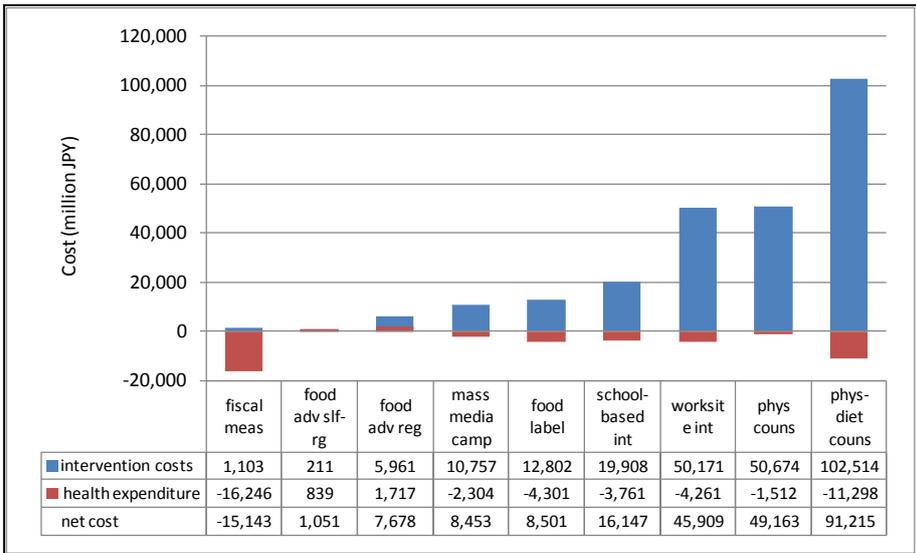
肥満と予防の経済学: 肥満ではなく健康を (FIT, NOT FAT)

日本に関する主な調査結果

1. 予防は健康増進と長寿化をもたらす。毎年、様々な予防プログラムを通じて、1万2,000~8万5,000人の慢性疾患による死亡を回避することができ、右を健康に生きられる生存年数に換算すると1万5,000~12万年に達する。



2. 予防にどれだけ費用がかかるか。予防によってどれだけ節約できるか。職場関連プログラムの年間費用が約500億円、家庭医による個人カウンセリングの費用が最大で年間1,000億円なのに対し、大半の予防プログラムにかかる費用は年間200億円未満となる。大半の予防プログラムは慢性疾患関連の医療費削減につながるが、削減額は比較的少額（最大で年間150億円）にとどまる。



3. 予防は費用対効果が高いか。 予防により、OECD 諸国の医療制度によって現在提供されている多くの治療より安い費用で健康を増進することができる。日本の場合、調査した予防プログラムの全てが長期的には（健康に生きられる生存年数 1 年あたり約 400 万円という国際的に受け入れられている基準より）費用対効果が高い。しかし、一部のプログラムは健康増進効果をもたらすまでに時間がかかるため、短期的には費用対効果が低くなる。

